

# 公立高校 WATCHING

## 東京都立 たちかわ 立川高等学校 (共学校)

### 伝統と進化の教育で 果敢に挑み続ける人材へ

「自主自律」の校風のもと、教養を身につけ視野を広げるための多彩な教育を展開する東京都立立川高等学校。生徒は「自律した学習者」として、探究活動、部活動、行事など多くのことに全力で取り組み、主体的な学校生活を送っています。

#### 人間としても成長し 自律した学習者となる

1901年の設立以来、120年以上の歴史を重ねてきた東京都立立川高等学校（以下、立川高）。伝統を受け継ぎながらも「立高は未来に向かって進化します」を合言葉に、2022年度に都立高校初理数科（創造理数科）をスタートさせるなど、時代に合わせて教育をアップデートしています。その校風は「質実剛健」と「自主自律」。内面を重視し、真面目で

たくましく健やかに育つこと、そして自身で考え行動し、自らを律することをさします。

鈴木宏治校長先生は「生徒には『自律した学習者たれ』と伝えていきます。与えられるのを待つのではなく、自ら進んで学び、物事に果敢に挑戦する人材になることを望みます。実際に生徒は、様々な場面で自主性を発揮しています。高校時代は、部活動や行事にも存分に打ち込んでもらいたいです。一生懸命に取り組んだ経験があれば、その大変さを実感しているこ

とから、頑張る仲間を助けようとする温かな心を持った人になれると思っています。本校はただ勉強さえやればいいという学校ではありません。心の成長がより重要だと考えています。人としての基本があつてこそ学力も伸び、希望進路の実現もかなうのだと思います」と話されます。

幅広い教養を身につけ「考える力」を養う

立川高には普通科に加え、すでにお伝えしたように創造理数科が

所在地：東京都立川市錦町2-13-5  
アクセス：多摩都市モノレール「柴崎体育館駅」徒歩5分、多摩都市モノレール「立川南駅」徒歩6分、JR中央線ほか「立川駅」徒歩8分  
生徒数：男子510名、女子441名  
TEL：042-524-8195  
URL：<https://www.metro.ed.jp/tachikawa-h/>

⇒ 3学期制  
⇒ 週5日制（土曜授業年間20回）  
⇒ 月・火・木7時限、水・金6時限  
⇒ 45分授業  
⇒ 1学年8クラス（普通科7クラス、創造理数科1クラス）  
⇒ 1クラス約40名





鈴木 宏治 校長先生

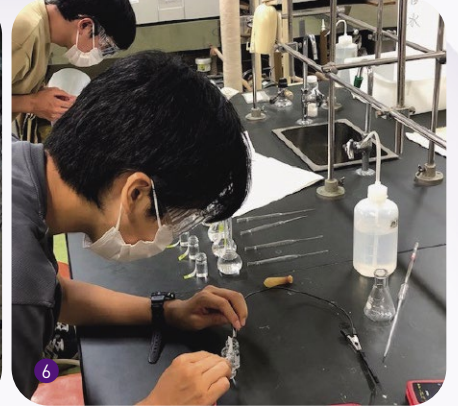
設置されています。カリキュラムをみると、普通科では高1・高2は文理に偏らず幅広く学び、高3から文系・理系に分かれます。「文系だから数学は必要ない、理系だから歴史は勉強しなくていい」ということはありません。大切なのは教養を身につけること。教養があれば世界は広がり、様々な人と親交を持つ際にも、教養がコミュニケーションのカギとなっていくはずですよ」と鈴木校長先生。

なる理数科ではなく「創造」理数科なのです」と力強く語ります。基礎に加え発展的な内容も学ぶ「理数数学」「理数物理」「理数地学」などの科目が高1から設けられ、「フィールドワーク研修旅行」や「全体を感じる企画（STEAM教育）」など、創造理数科独自の特別企画も用意されています。

どちらの科でも意識されているのは、「教え込まない授業」の実践。「教員には『問う力』を、生徒には『考える力』を磨くことを期待しています。例えば歴史であれば、歴史上の人物について事実を伝えるだけではなく『どんな思いを持っていたのか』『あなたならどう行動するか』と生徒に問いかける。ほかの科目でも同じです。『なぜそうなるのか』『なぜそう思うのか』……すると生徒はその問いについて考えをめぐらせ、興味を持って深く学んでいけるのです。最終的には生徒自らが適切な問いを立てる力を身につけてほしいです」と鈴木校長先生は話されます。



**[行事・部活動]** ①臨海教室をはじめ②演劇コンクール、③立高祭(文化祭)、④合唱祭など多くの行事があり、生徒が主体となって企画・運営しています。部活動⑤軽音部⑥茶道部も盛んで、昼休みなどの時間も有効に活用しながら両立に励んでいます。



【多彩な学び】①②「課題研究」に没頭したり、③英語力を伸ばして④海外研修に挑戦したりと、多彩な学びの機会があります。創造理数科では特別企画⑤八丈島フィールドワーク研修⑥東京農工大学での化学実験教室なども実施されています。

## 4つの柱で展開するSSHとしての取り組み

立川高は2018年度からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定されています。「立高から世界へ」解なき時代にたくましく挑み続ける国際性豊かな科学技術人材の育成をテーマに、「課題研究」「国際性の育成（英語教育）」「本物体験」「教科教育」を柱として、それぞれに多彩な取り組みを用意しています。

前述の通り、「教科教育」では「考える力」を育てることが意識されています。それは「課題研究」でも同様です。普通科で行われる授業「SS課題研究」、創造理数科の「理数探究」のどちらにおいても、各自またはグループでテーマを定めて全員が研究を深めます。その成果について英語で要綱を書き、ポスター発表も行います。鈴木校長先生は「研究成果は校内に加え校外でも発表することをめざし、創造理数科では外部発表

会への参加を必修としています。自ら課題を見つけ、解決方法を検討する、その力は社会人になっても求められるものです。「研究」と聞くと、難しそう、と不安を感じるかもしれませんが、とても重要な取り組みです。1つのことをとことん突き詰める経験は、文系、理系にかかわらず、将来きっと役立つはずですよ」と話されます。

## 教室を飛び出して学ぶ多くのプログラム

「課題研究」に活かされる実践的な英語力を鍛えるのが、「国際性の育成（英語教育）」の一環として両方の科に設置されている「SSコミュニケーション」です。

日本人教員とネイティブスピーカーの教員によるチームテイーチングで実施されます。ライティングスキルだけでなく、読解力、プレゼンテーションやディベートをする力も身につけていきます。

さらに台湾の学校とのオンライン交流や、2023年度からスタ

多種多様な体験を通じて教養を  
深め視野を広げられる立川高の学

## 目標に向けて努力し 一勝（一笑）を手にする

「本物体験」では「現地でしか学  
べないことがある」との思いから、  
フィールドワークをはじめ、博物  
館や研究所を訪れるツアーが行わ  
れ、ノーベル賞受賞者などによる  
講演会、連携する大学での実験講  
座なども実施されています。

「一人一勝（一笑）をめざそう」  
これは私が大学受験を控えた高3  
に伝えている言葉です。立川高生  
の進路は様々です。他者との比較  
ではなく、自らの目標に向けて全  
力で頑張る。努力を重ねて一勝を  
手に入れられたら、自然と笑顔が  
生まれるという意味を込めていま  
す」（鈴木校長先生）

現在、そして今後の社会で求め  
られる力を育てるべく、教育を進  
化させる立川高。生徒は自主自律  
の精神を持ち、自身の足で歩ん  
でいける人材に成長しています。  
最後に鈴木校長先生は「志望校  
を選ぶ際、『ここで学びたい』『楽  
しく通えそう』といったワクワク  
した気持ちを持てるかどうかを一  
つのポイントにしてみてください。

そうした気持ちがあれば、充実し  
た3年間になるはずです。

ある卒業生は「勉強はどの学校  
でもできますが、立川高であれば  
伸びのびとした校風に加え、SS  
Hとしての様々なプログラム、こ  
こにしかない多彩な行事もそろっ  
ていると感じたんです。そして個  
性を大事にしてくれるところにも  
惹かれました」と言ってくれまし  
た。これからも、『学習指導・進学  
指導の充実』『探究活動の充実』『自  
主自律の尊重』を基盤とする本校  
ならではの教育を提供し続けてい  
きます」と話されました。

### ■2023年3月 大学合格実績抜粋（ ）内は既卒

国公立大学		私立大学	
大学名	合格者	大学名	合格者
北海道大	11 (2)	早稲田大	61 (8)
東北大	7 (1)	慶應義塾大	18 (4)
筑波大	4 (0)	上智大	26 (3)
お茶の水女子大	5 (1)	東京理科大	50 (21)
東京大	3 (0)	青山学院大	44 (5)
東京外国語大	9 (0)	中央大	76 (19)
東京学芸大	10 (1)	法政大	81 (36)
東京工業大	5 (0)	明治大	110 (29)
一橋大	9 (0)	立教大	60 (15)
京都大	5 (2)	学習院大	14 (3)
大阪大	3 (0)	国際基督教大	4 (0)



【施設】①広々としたグラウンドや②天体ドームなどの施設もそろっ  
ています。天体ドームは天文気象部の活動場所でもあります。

写真提供：東京都立立川高等学校 ※写真は過年度のものを含みます。